

外来担当表

外来窓口	科名	時間	月	火	水	木	金
22 眼科	眼科	午前	中山昌子	手術	中山昌子	手術	中山昌子
		午後	専門外来	手術 特殊外来	専門外来	手術 特殊外来	専門外来

※外来担当表は、予告なく変更される場合がございます。来院前に必ずお電話でご確認ください。  
※休診予定については、お電話にてご確認ください。連絡先:083-262-2300 (代表)



# Doctors File 17



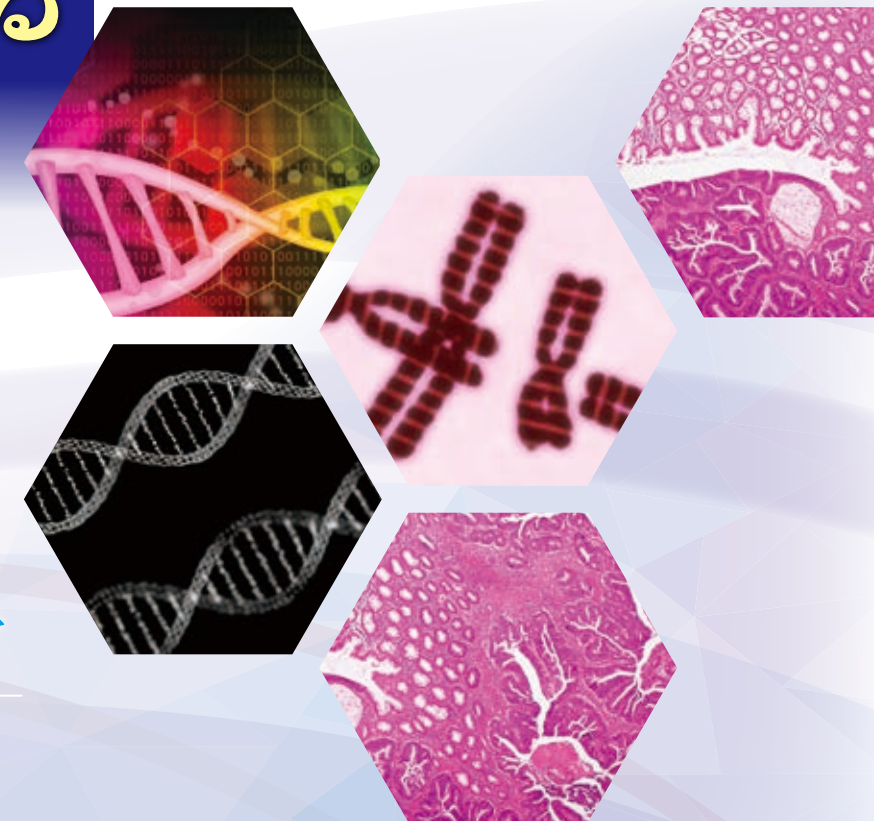
## 眼科

Ophthalmology

診  
る

## 病理診断科

Diagnostic Pathology





# Ophthalmology

## はじめに

当院に赴任して長くなりましたが、地域の眼科の先生方にはもちろん、眼科以外の診療科の先生方にも多数ご紹介、ご高導をいただき、この場を借りて心より御礼申し上げます。

## 診療の概要

当科では眼科診療一般、白内障や緑内障、角結膜疾患、あるいは全身疾患やその治療に伴う眼症や合併症などの診療を行っています。もちろん眼鏡調整やコンタクト処方等も致しますが、クリニックに比べ診療時間が限られていますので、それ自体が目的という方は希で、また市内には白内障手術を得意とされる眼科クリニックも多いので、担当状態、心疾患をはじめ慢性的基礎疾患をお持ちの方や、独居やご高齢で入院手術を要する方などが多く対象となります。

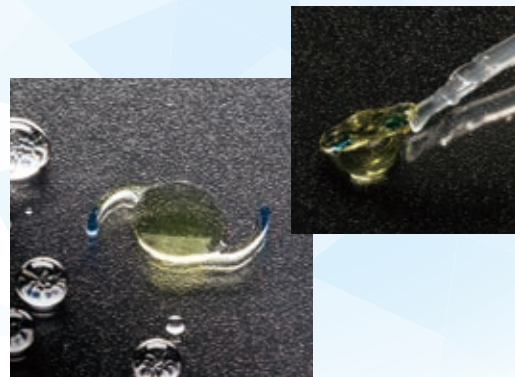
残念ながら網膜硝子体手術や抗VEGF(血管内皮増殖因子)療法、鼻涙管手術は施行しておりませんので、網膜剥離や進行期の増殖糖尿病網膜症に合併した硝子体出血、加齢黄斑変性、涙道閉鎖などの疾患については治療適応があれば、診断後速やかに大学病院など他施設にご紹介させていただいております。

基礎疾患などで治療適応がない、あるいはご本人が治療をご希望されない場合もありますので、どちらの場合もご納得いただけるようなご説明を心がけております。

また、手術適応のある眼瞼下垂や眼瞼腫瘍、眼窩骨折については形成外科の施術となりますが、術前診断や術後のfollowは適宜行わせていただいております。

## 他科の先生方へ

「緑内障の点眼をしているようですが、開放隅角ですか閉塞隅角ですか?〇〇の薬は使っても大丈夫ですか?」とのご照会をいただくことがありますが、確率的には開放型で薬剤禁忌とならない事の方が多く、閉塞隅角の方には「使えない薬があるのでどこの病院に行っても申告するように」、開放隅角の方には「使えない薬はありません」と最初にお話はしているつもりですが、



時間がたつと(あるいは自分が緑内障という事すら)ご記憶されていないことも少なくないようです。両眼の白内障手術(眼内レンズ)の既往のある方であれば、ほとんど問題はないと思いますが、お悩みの場合にご遠慮なくご連絡下さい。

糖尿病患者さんに関しては発症時にはご紹介やおすすりもあって眼科受診され、光凝固などの治療を行ったり、視力低下などの眼症状がある方は比較的、定期受診が続くのですが、眼症(一)や発症していても自覚症がない、あるいは軽症の状態が続くと診断されやすく、とくに若年発症者で30代~50代になると現在の血糖コントロールの良否に関わらず急激に進行する危険性が高いように思います。できましたら時折(当院に限らず)眼科受診の有無をご確認いただくと幸いです。

## 最後に

受診時にかなりお時間をいただく事が多く、大変ご迷惑をおかけしておりますが申し訳ございません。

今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

中山 昌子

余談ですが、新緑の季節(執筆時点)、桜、躑躅のあとは菖蒲が見頃となりますが、英語ではアヤメ科の花は総称してアイリス(IRIS=虹彩)です。単に発音が同じだけと思っていましたが、語源は同じようす。日本人の茶色い虹彩からは想像できませんが、欧米人の青い目がアヤメの花の蒼を連想させたのでしょうか(あるいは逆?)。IRISはギリシャ神話で虹の女神だそうで、確かに菖蒲も目の色も七色とは行かなくてもいろいろな色がありますね。どちらかという朝顔の方が近い気もしますが、青い菖蒲を真上から見ると青い目に見えないこともありません。



# Diagnostic Pathology

## がんゲノム医療 (がんゲノムパネル検査)について

病理科では臨床各科から提出される組織・細胞検体の病理学的診断、細胞学的診断を行っています。診断に占める腫瘍性病変の割合は高く、がんゲノム医療における役割も近年ますます重要になってきています。

がんは遺伝子異常の積み重ねにより発生しますが、最近、その様々な遺伝子異常を標的とした新しい抗がん剤(分子標的薬)が開発され、難治性の再発・進行がんに対して高い有効性が示されています。これら分子標的薬の治療効果を予測、判定するためには、がん細胞で起きている遺伝子異常を遺伝学的検査(遺伝子検査)で確認することが必須です。遺伝子異常を調べる方法として、以前より病理組織検体が用いられ、免疫組織学的検査で、がんでの特定の蛋白質の異常発現等が調べられてきましたが(乳癌のHER2遺伝子増幅に対するハーセプチン等)、最近では病理組織検体から直接DNAを抽出して遺伝子異常を調べることも行われています(肺癌のイレッサに対するEGFR遺伝子変異等)。さらに次世代シーケンサー(NGS)の使用により、一度に多数のがん関連遺伝子の異常をまとめて調べることができるようになり、この情報を基に、がんの種類に関

係なく、遺伝子異常に基づく新たな治療薬(他のがんでの既承認薬や治験中の新薬等)を見つけようという目的で行われる検査が、一昨年6月より保険適用となったがんゲノムパネル検査です(図1)。

がんゲノムパネル検査は、実際に治療を行う主治医の他、病理専門医、がん薬物療法専門医、臨床遺伝専門医等の様々な分野の専門知識を持った人材と高度な遺伝子検査技術が必要であり(図2)、行える医療機関は限られており、令和4年4月1日現在、全国で12のがんゲノム医療中核拠点病院、33の拠点病院、189の連携病院が厚生労働省に指定されています(図3)。山口県では現在、山口大学医学部附属病院を含む3病院が岡山大学との連携病院として指定されており、当院(済生会下関)は連携病院を目指して準備中です。

帖地 康世

## がんゲノムパネル検査とは? (図1)

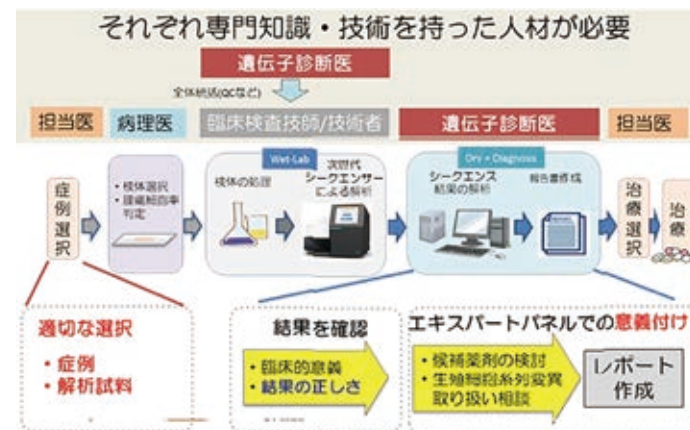


これまでの治療法  
同じ臓器のがんには  
同じ薬を使う。

これからの治療法  
違う臓器のがんでも  
同じ遺伝子変異ならば  
同じ薬を使う。



## がんゲノムパネル検査の流れ (図2)



(第69回がん対策推進協議会資料より作成)



[眼科]



# 中山 昌子

Nakayama Masako

眼科科長

【出身大学】 山口大学(昭和62年)

【専門領域】

眼科一般

【資格】

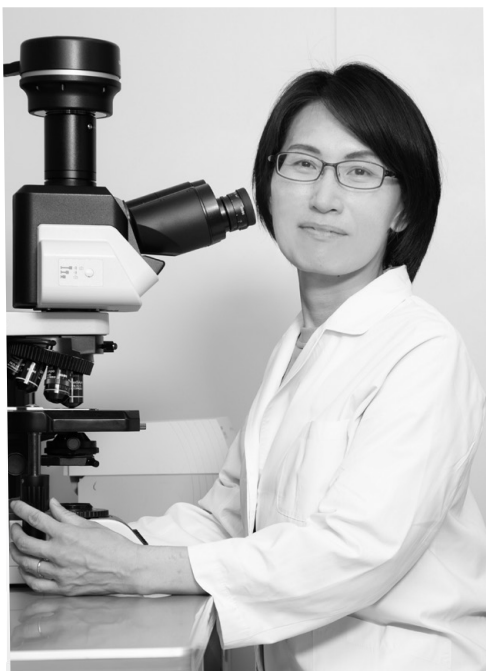
日本眼科学会 専門医

一所懸命

おひとり 御一人と

真摯に向き合います

[病理診断科]



# 帖地 康世

Chochi Yasuyo

病理診断科科長

【出身大学】 山口大学(平成12年)

【専門領域】 病理全般

【資格】

日本病理学会 病理専門研修指導医

日本専門医機構 病理専門医

日本臨床細胞学会 細胞診専門医

死体解剖資格

病理診断が

患者さんの適切な

医療提供の一助となるよう

努めてまいります